(社)日本技術士会　原子力・放射線部会
(社)日本原子力学会　原子力教育・研究特別専門委員会　共催

平成 19 年度　原子力・放射線部門新技術士講習会（一次・二次合格者合同）
（報　告）

日時　：　平成20年4月4日（金）　13：30～17：20
場所　：　葺手第二ビル5階　日本技術士会会議室（A、B）
参加者：　来賓：4名、二次合格者：38名、一次合格者：6名、部会員：12名、計：60名

平成19年度の技術士原子力・放射線部門の第 1 次試験及び第2次試験合格者を対象に講習会を開催した。

1．開会の挨拶

（原子力・放射線部会　林部会長）

平成 19 年度の原子力・放射線部門の合格者数は、第2次試験95名、第1次試験200名以上であり、原子力・放射線部門の技術士は、累計248名になった。しかし、3−4万人いると言われるこの分野の技術者の1%にも満たないため、皆さんの周りの方に技術士の受験を勧めて欲しい。

部会では、部会活動の柱のひとつとして技術士制度が世の中で役立つ方法を考えている。設立の経緯を踏まえて、安全確保のために制度を利用してもらいたいと考えている。アメリカでの例のように民間での審査も利用のひとつとして捉えている。

利用してもらうためにも技術士を増やすこと、そして、どのような技術士の利用方法があるかを皆さんと一緒に考えていきたい。

2．来賓から合格者への祝辞

（日本原子力学会　工藤教授）

技術士の部門として、最後発でありながら、平成 19 年度の合格者数は20部門中で中位であった。また、合格率はトップである。先日の原子力学会の年会で技術士制度の具体的活用について発表を行った。部会長からも話があったとおり、技術士の制度活用が課題であり、活用してもらうためにも技術士の数を増やすことが大切である。原子力学会として技術士の活動に協力している。

1次試験合格者は、2次試験合格に向けて頑張って欲しい。また、2次試験合格者は、研鑽のためにも後人の指導をお願いしたい。

（原子力安全基盤機構　成合理事長）

原子力学会の会長のときに原子力・放射線部門の技術士を創ることを提案した。その背景には、JCOの臨界事故、電力会社の不祥事などがある。

平成19年度の試験で原子力安全基盤機構（JNES）からも2名の合格者があった。JNES内において技術士の資格はどの程度の権威があるのかということが話題となった。博士くらいなのか？技術士は、原子炉主任技術者などの必置資格とは異なる資格である。必置資格ではないところから本当の資格社会のあり方を考えなくてはならない。今後の活躍に期待する。

（日本原子力研究開発機構　柴田特別研究員）

原子力や放射線施設での事故やトラブルというと大きな騒ぎになる。そのような騒ぎになったときに、技術士が一般の人にも理解しやすい見解を発表することが大切だと思う。特に倫理的な面から見解を出すのが技術士としての使命である。

一概に事故といっても、いろいろな種類がある。研究段階で起きる事故の中には、新しい技術の開発、技術の発展という意味で、ある程度の想定の中でのトラブルはつきものである。原子力船「むつ」のストリーミングや「もんじゅ」の温度計のさやのトラブルなどは、このような部類に入るものだったように思う。しかし、動燃のアスファルトの火災やJCOの事故など、明らかに技術者が間違えたことで起きた事故が問題である。

その事故やトラブルがどうなのかを技術士が議論し、必要に応じて見解を出すということをやって欲しい。

（日本技術士会　竹下専務理事）

今までの技術士会の活動はどちらかというと内向きの活動であったが、外向きの活動でないといけない。先般の食品安全の問題に関して、食品に関連する農業、水産、バイオなどの部会が再発防止のための議論や活動を開始している。部会から食品安全に対するメッセージを発信したところ、技術士会の活動として新聞に取り上げられた。

原子力・放射線部会も建設部会などと協力して、中越沖地震で被害のあった柏崎刈羽原発に調査団として赴くことになっている。技術士として何が言えるかが課題である。コミュニケーターとして、一般の人に分かりやすく伝えることも技術士のあり方である。事故が起きるとマスコミが衝撃的に取り上げる。すると風評被害が起き、更にマスコミが取り上げて、騒ぎが更に大きくなる。マスコミに意見を言うのも技術士の役目ではないか。

どうして技術士ができたのかをよく考えて欲しい。技術士に求められるもののひとつに倫理がある。試験に合格したことがスタートである。継続研鑽に励んで欲しい。また、原子力・放射線部門の技術士のほとんどが企業に属していると思われるが、技術士会員になり、いろいろなコミュニティに入ることで、見識の幅が広がる。様々なメリットがあるので是非とも技術士会に入ってもらいたい。

3．新技術士講習

佐川理事：日本技術士会の活動と技術士登録について

園田幹事：技術士の役割、CPD登録、技術士の特典およびAPECエンジニア登録について

桑江幹事：原子力・放射線部会の活動と技術士制度活用について

成川幹事：平成20年度技術士二次試験について（一次合格者向け）

4．写真撮影、休憩

5．合格者の自己紹介

氏名、所属会社名、勤務部署、現在の主な業務、技術士試験についての感想、部会での活動項目、提案等を中心に全員の自己紹介があった。

【2次試験合格者】

・2次試験に合格した今がスタートだと思っている。そのことを肝に銘じていきたい。

・本日の講習を聞き、これからが大変だと感じている。

・原子力という一般には分かりづらいことを一般の人にわかりやすいように伝える役目を果たしたい。

・技術士の資格には倫理があるというというところに魅力を感じて受験を決意した。

・組織にいると周りのことが見えなくなる。技術士の活動を通して横のつながりをもちたい。

・もともとAPECエンジニアとして活躍したいと思い、最短コースと考えて技術士を取得した。

・今後、関西での活動を活発にしてもらいたい。

・技術士って何？という人が多い。啓蒙をすることで会員増強に協力したい。

・資格によって安全やコンプライアンスが守れるかとの議論があり、基準を守ればそれでよいと思いがちであるが、技術は人が担うものであり、そのための資格が技術士だと思っている。

・技術士になった以上は、マニュアルどおりにやればよいということではなく、そのマニュアルが技術的に本当に正しいのかを考えることをしていきたい。

【1次試験合格者】

・まだ2次試験の受験資格がないので、日々研鑽を積み経験年数が達したらすぐにでも受験したい。

・既に2次試験の受験資格があるので今年度受験する。

6. 先輩技術士からの祝辞と紹介

先輩技術士一人一人から、合格者に対して祝辞と激励があった。

参加者記念撮影

7. 懇親会

場所を居酒屋（串特急）に移し、工藤教授の乾杯の音頭により、ビールを酌み交わし、銘々に親睦を深めた。名刺交換をする者、熱い議論をする者と、それぞれに盛り上がっていた。

参加人数は、44名という大人数であり、会場の半分を占める様相は圧巻であり、感慨深いものであった。

懇親会風景

以　上